

コラム 緑化植物 ど・こ・ま・で・き・わ・め・る

コウゾ (*Broussonetia kazinoki* Sieb.)



細木大輔 (明治大学農学部) hoso@isc.meiji.ac.jp

和紙の原料としてその名がよく知られているコウゾは、クワ科 (*Moraceae*) の落葉低木である。赤褐色の樹皮は繊維質に富み、素手で小枝を折ることはできても、樹皮を引きちぎることは難儀である。初夏には、紅色の長い花柱が目立つ火の玉のような奇妙な形をした集合花を付け、夏には液質の赤い果実となる。果実の液には粘性があって食べると甘い、美味しい! とは言えない。葉は写真のように、切れ込みがいくつも見られるものから全くないものまで変化に富んでいる。秋には黄葉する。

実はこのコウゾについては、「種」であるとする文献^{4,5)}と「雑種」であるとする文献^{3,6,7)}がある。種であるとする新日本植生誌⁵⁾によると、本州から沖縄の山地に分布し、雌雄同株で、葉の大きさは 5-15cm、3-8cm であるとされる。一方、日本の野生植物⁶⁾では、コウゾはヒメコウゾとカジノキの雑種とされ、雌雄異株で、結実することは稀であると記載されている。母種の 1 つであるヒメコウゾ (*Broussonetia kazinoki* Sieb.) は、雌雄同株で、葉はコウゾより小さく長さ 4-10cm、幅は 2-5cm である⁶⁾。もう一方のカジノキ (*Broussonetia papyrifera* (L.) Vent.) は雌雄異種で、葉裏にはピロード状の毛が生え、大きさは 10-20cm、幅は 7-14cm である⁶⁾。繊維を取るために古くに外国から導入され、栽培されていたものが野生化したとする文献^{3,6,7)}や、自生種であるとする文献⁵⁾がある。コウゾは結実することが稀である^{6,7)}とする雑種説からは、たくさん結実しているコウゾのような木はヒメコウゾであると考えられる。しかし、関東地方では大人の手のひらほどの大きさの葉を着け、ヒメコウゾと同様の果実をたくさん結んでいる個体を多く見かける。これら大きな葉を着けた個体の種名に「ヒメ」と付けるのは気が引けてしまう。またコウゾは、結実が稀であること以外はヒメコウゾと特徴が似ており、葉だけで区別することは難しいらしい⁷⁾。ちなみに、ヒメコウゾをコウゾの別名とする文献¹⁾や、その逆を記載している文献⁷⁾もある。

コウゾと葉の形が似ている樹種の一つにヤマグチ (*Morus bombycis* Koidz.) がある。ヤマグチはコウゾと同じクワ科の落葉樹で、北海道から沖縄まで全国的に分布する⁷⁾。コウゾとヤマグチは葉の大きさが同程度で、共に類似の異形葉性を持つことから時として見分けが難しいが、両種の明確な違いを把握していれば同定は用意である。筆者は主に若枝と葉の鋸歯の大きさと同定している。コウゾの若枝は有

毛で紫褐色であるのに対し、ヤマグチは無毛で黄褐色である。葉の鋸歯は、葉の大きさが同じ場合にはコウゾの方が細かい (写真)。これらの点は、見慣れない人にとっては実際に並べて見なければ分かりにくいと思う。そこで、もっと分かりやすい区別点を紹介する。それは冬芽である²⁾。コウゾの冬芽は 2 個の芽鱗 (芽を包む皮) の重なり目が縦に走る (写真)。一方、ヤマグチの冬芽に 5~6 個の芽鱗があり、それらの重なり目は斜めで、幾重にも重なる。ただし、この点で見分けが付くのは、冬芽が形成されている時期に限られる。

関東の森林の土壌シードバンク中にはコウゾが多く確認できる。森林表土を用いて緑化したのり面では、コウゾが旺盛に生育し、施工後 3 年目に結実しているのを確認したことがある。また、低木林の林床では小型ながら何年間も生育し続けている個体を目にする。林床の暗い環境において、幹を伸ばしては枯らし、再び根元から新たな幹を伸ばすことで光環境が良くなるのを待っているようである。これは上層部を覆う植物が無くなった時に素早く生育するためであろう。コウゾは、荒地における生育力と生存力の高さや、発芽から結実までの時間の短さ、毎年大量に結実し、果実は動物の餌資源になる点から、生物多様性保全を目指す緑化の材料としての能力を有していると言える。古来より有用であったこの種には、緑化材料としての新たな価値が秘められている。

引用文献

- 1) 馬場多久男 (1999) 葉でわかる樹木, 信濃毎日新聞社, 385pp.
- 2) 亀山 章・馬場多久男 (1984) 冬芽でわかる落葉樹, 信濃毎日新聞社, 275pp.
- 3) 北村四郎・村田源 (1979) 原色日本植物図鑑木本編 (), 保育社, 456 pp.
- 4) 宮脇 昭・奥田重俊・藤原陸夫 (1994) 日本植生便覧 (3 次改訂版), 至文堂, 910pp.
- 5) 大井次三郎 (1992) 新日本植物誌顕花編 (北川政夫改訂), 至文堂, 1594pp.
- 6) 佐竹義輔他編 (1989) 日本の野生植物木本 I, 平凡社, 288pp.
- 7) 高橋秀男・勝山輝男監修 (2000) 樹に咲く花 - 離弁花 1, 山と溪谷社, 699pp.

このコラムは、日本緑化工学会ホームページにカラーで掲載されています。ぜひご覧下さい。(<http://www.soc.nii.ac.jp/jsrt/>)

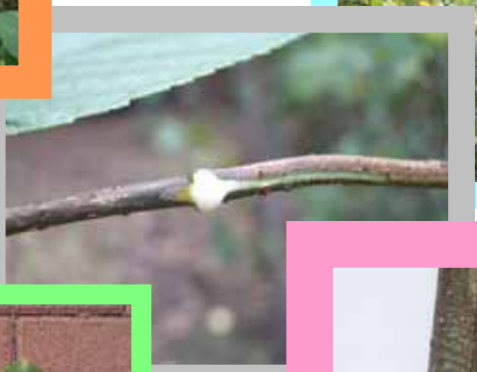


コウゾの枝
異形葉が互生に
並ぶ。ジグザグ
に折れながら伸
びる。

コウゾが群生する斜面
時期は10月。黄葉している葉
も見られる。



コウゾの樹液 枝を折ったり
葉をちぎると白い樹液が出
る。これはヤマグワも同じ。



コウゾとヤマグワの葉
同じような大きさと形の葉を上
下に並べてみた。



コウゾとヤマグワの冬芽
コウゾは芽鱗2枚が枝と
水平に重なる。ヤマグワ
は芽鱗5、6枚が斜め向き
に重なる。

コウゾの枝 色は紫褐色。ヤマグ
ワよりも滑らかな感じ。



鋸歯の拡大写真
コウゾの方がヤマグ
ワよりも鋸歯が細か
い。



ヤマグワの枝 色は黄褐色。